

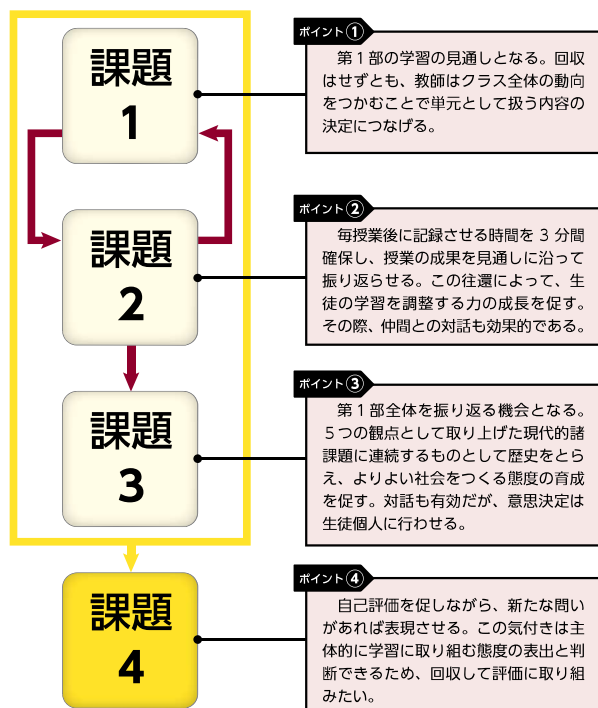
「時代の展望」学習ポートフォリオ 使い方解説

① 学習ポートフォリオとその使い方について

(1) 学習ポートフォリオとは

設定した課題(問い)の解決や目標の達成に向けて、学習過程を継続的に記録し、獲得した成果をまとめたものである。活用する利点として、①学習者自身が随時自己評価を行える、②学習プロセスを含めた多面的な評価ができることが挙げられる。「時代の展望」学習ポートフォリオは、これらの役割を1枚のワークシートで担うことができるように構成した。ただし、留意点もあるので、活用のポイントを以下に図示したい。

(2) 「時代の展望」学習ポートフォリオ活用のポイント



これらのポイントのうち、特に3つ留意点を挙げておきたい。まずポイント①について、生徒が立てた学習の見通しをある程度反映させながら授業内容を精選するためには、場合によっては全6テーマのうち、例えば2テーマのみに限定しておくといった工夫も有効である。次にポイント③について、5つの観点を意識する際に『シンフォニア』本体右下の「振り返ろう!」を総覧することで、第1部全体から生徒自身が学習内容を焦点化できる。インデックスとして色分けされていることを生徒に伝えてほしい。最後にポイント③と④については、これらの活動が第2部や第3部での主体的な学びにつながっていくので、少なくとも1時間を設定するなど生徒が学習を振り返る機会を確保してほしい。

② 学習ポートフォリオを活用した評価について

(1) 観点別評価について

「歴史総合」では、生徒が歴史に関する知識を獲得することだけでなく、むしろ、問いの創出→資料への着目→情報の抽出→考察→表現→問いの吟味といった螺旋的な思考プロセスを熟練させることや、歴史を使ってよりよい社会をつくらうとする態度の育成が求められる。その学びを評価するには、定期考査以外からいかに生徒の実態を見取ることができるかが重要である。そこで、「時代の展望」学習ポートフォリオを活用した評価プランを提示したい。

(2) 評価プラン1—小単元末に設定した課題の評価

課題1で表現された学習の見通しは生徒ごとに異なるため、教師は全体の動向を踏まえて選択的に主題を設定した6時間程度の小単元を展開していくことが望ましい。例えば「産業と人口」や「交通と貿易」のテーマに関連させて「産業革命の進展は世界を豊かにしたのだろうか?」という主題を設定できる。この単元末に、同テーマで表現活動を行う時間を設定すると、「知識・技能」としての資料の活用能力や、「思考・判断・表現」としての複数の歴史的事象を比較しながら意思決定する力を評価できる。こうした多面的な評価をする際には、ループリックとよばれる評価基準をまとめた表を生徒に事前に提示したい。なお、この評価を教師が行うことは時間的制約から難しいことも現実的な課題の一つである。そこで積極的に生徒間評価を取り入れることで、生徒自身の学びの調整力向上を目指すことができる。

(3) 評価プラン2—完成したワークシートの評価

完成させたワークシートを回収し、見取することで、「主体的に学習に取り組む態度」を評価することができる。着目したい点は、課題1と課題3を比較して見られる問題意識の変容または強まりである。そして、その変容または強まりが課題2の記録と関連しているかどうかを判断し、確認できたらBに到達していると評価する。到達していない生徒には、不足している視点をフィードバックするとよいだろう。続いて課題4に視点を移し、新たな問いの創出が生まれているかどうかを判断する。この問いが理由も含めて表現されており、課題1から3を深めるものであればAに到達していると評価する。Aの事例はクラス全体に紹介することで、生徒の自己肯定感を向上させるだけでなく、評価観の共通理解を促すことにもつながり有効である。なお、長期的な評価であることから授業の欠席等で一部が空欄になることもあるため、漏れなく書けているかといった細部よりも、大部を見取るよう意識したい。